



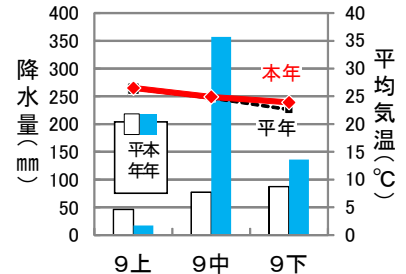
# 農作業一口メモ

(平成28年10月号)

鳴門藍住農業支援センター  
鳴門藍住地区農業生活指導班

## 気象 <四国地方 1ヵ月予報(10月1日~10月30日)>

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。降水量は、多い確率50%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。  
(平成28年9月29日高松地方气象台発表より抜粋)



## ブロッコリー・カリフラワー・キャベツ <10月の管理について>



- 定植後、登録剤の散布によりアブラムシやヨトウムシ等の被害防止に努めましょう。
- 最後まで肥切れしないように追肥しましょう（一回目の追肥は、定植後10~15日の根が完全に活着した頃）。また、追肥と同時に、雑草の発生や倒伏防止のため土寄せを行いましょ。

## レタス <10月の管理について>



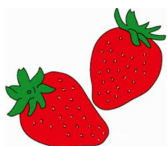
- 害虫被害を防止するため、ジュリボフロアブルを定植前日から当日までに、200倍でセルトレイ1枚当たり0.5Lをかん注すると、定植後約1ヶ月間高い防除効果が持続します。
- 外葉の形成期に乾燥が続くときは、小玉化を防ぐため、畝間の半分ぐらいの深さにかん水し、1時間後に落水しましょう。

## たまねぎ <育苗管理について>



- 播種後7~8日で発芽しますので、発芽したら早めに覆いを取り除き、苗立枯病予防の農薬を散布します。
- 本葉3枚までに株間1cmになるよう間引きし、生育に応じて液肥を散布し、締まった苗を作りましょう。
- 近年本圃でのべと病の発生が増えていますので、育苗中から予防散布を心がけましょう。

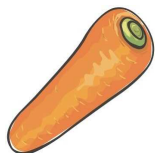
## いちご <ビニール被覆までの管理について>



- マルチ張りは10月上中旬に行い、作業後10~15日くらいは、マルチを肩まで上げ、その間土壌の乾燥に注意しましょう。
- ビニール被覆を10月下旬に行い、被覆後7~10日は昼夜十分換気しましょう。
- ビニール被覆前までに、病害虫の徹底防除をしましょう。
- 蕾が出始めたら窒素成分で1kg/10a程度、液肥などを中心に追肥しましょう。
- ミツバチは開花期にあわせて計画的に導入しましょう。

**8月10日~10月10日は、「秋の農作業安全運動月間」です。**  
繁忙期を迎え、多忙な日々が続きますが、十分な休憩と睡眠をとり、過労による事故を防ぎましょう。

## にんじん <10月の管理について>



- 元肥は播種10日前までに全面に施用し、できるだけ多く耕し（5～10回）、高畦にしましょう。
- 10月播きに発生が多いヨトウムシ類に注意し、加害初期の幼齢期に防除しましょう。

## かぶ <播種前及び生育初期の管理について>



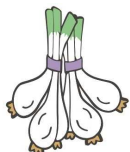
- 10月中旬から露地の秋まき、トンネルハウスの播種が始まります。堆肥の施用、均平な耕耘・整地等行うことで、保水性・排水性を備えた土作りに努めましょう。
- 播種から生育初期にかけては、土壤水分を適切に保つようにしましょう。
- キスジノミハムシ、アブラムシ類の発生が心配な場合は、播種前に防除しましょう。

## だいこん <10月の管理について>



- 10月は播種時期によって品種が変わるので、栽培暦を参考に適切な品種を選んでください。追肥は、本葉6～7枚が1回目、本葉10～12枚が2回目の目安となっています。肥切れをさせないように、適切に行ってください。台風等の大雨が予想されますので、排水に注意するとともに大雨後はできるだけ早く溝切り等を行ってください。また、病害の発生を防ぐために殺菌剤を散布してください。

## らっきょう <植え付け後の管理>



- 地上部の生育を見ながら1回目の追肥を行いましょう。
- ネダニ・アザミウマ類が開花期頃に発生しますので、早めの防除に努め、品質の良いらっきょうを生産しましょう。

## なのはな <10月の管理について>



- 直まきたら、本葉4枚までに間引き、1株にしましょう。
- 移植栽培は本葉3～5枚で定植します。活着するまで十分にかん水しましょう。
- 寒くなる前に大きな株に育てましょう。月に2～3回追肥し、中耕、土寄せしましょう。また、大雨に備え、排水路を整えておきましょう。

## かき <収穫・出荷の注意点について>



- 着色の良いもの（カラーチャート4以上）から丁寧に収穫しましょう。早すぎる収穫は避けましょう。
- 9月は雨が多かったため、炭そ病の発生が多くなると考えられます。被害果は翌年の発生源となるため、見つけ次第園外に持ち出して処分しましょう。

**農薬を使用する場合には、ラベルに記載されている内容を確認の上、農薬が周辺圃場等にかからないように注意しながら散布して下さい。散布後は、使用した器具の洗浄を徹底し、薬液を十分に洗い流して下さい。**

鳴門藍住農業支援センターのホームページでも掲載しています。

[http://www.pref.tokushima.jp/shien/naruto\\_aizumi/](http://www.pref.tokushima.jp/shien/naruto_aizumi/)

※提案・お問い合わせについては、鳴門藍住農業支援センターまで

電話番号：088-692-2515